2022年度　社会福祉法人鶴見あけぼの会　事業報告

1. 保育事業
2. 入所状況等について

　2022年４月1日時点の入所児童数は、鶴見あけぼの保育園は入所定員69名に対し65名、矢向あけぼの保育園は入所定員60名に対し53名、あけぼの共同保育所は1名であった。なお、あけぼの共同保育所は5月1日に入所児童が他の認可園に転園したため0名になり、4月30日付けで廃止した。年度末は、鶴見あけぼの保育園は68名、矢向あけぼの保育園59名であった。鶴見あけぼの保育園12名、矢向あけぼの保育園12名が卒園した。

1. 保育事業と新型コロナウイルス感染症感染防止の取り組みについて

　新型コロナウイルス感染症感染拡大防止に取り組みながら、日常の保育、各行事に積極的に取り組んだ。特に運動会、卒園式、園見学、保護参観、クラス懇談会などは保護者の参加を得て実施した。ベビーマッサージ、クリスマスコンサート、わらべうたの会など子育て支援や三者（保護者、園、法人）懇談会を実施した。保育実習、中学生職業体験を受け入れた。

　鶴見あけぼの保育園と矢向あけぼの保育園は、園児、職員が新型コロナウイルス感染症に感染した際、以下のとおりに休園した。

・鶴見あけぼの保育園（一部休園、登園自粛要請）；4月20日（水）～4月26日（火）（感染；園児1名、職員1名。濃厚接触者；園児11名）

・矢向あけぼの保育園（一部休園、登園自粛要請）；5月10日（火）～5月16日（月）（感染；職員1名。濃厚接触者；園児14名）

・矢向あけぼの保育園（一部休園、登園自粛要請）；5月14日（土）～5月20日（金）（感染；園児2名。濃厚接触者；園児53名、職員延べ14名）

・矢向あけぼの保育園（一部休園、登園自粛要請）；7月19日（火）～7月23日（土）（感染；園児1名、職員2名。濃厚接触者；園児14名）

・矢向あけぼの保育園でクラスター（園児15名、職員7名）が発生し8月30日（火）は全面休園。8月31日（水）から9月7日（水）まで3歳児～5歳児は休園。0歳児～2歳児には登園自粛要請。

1. 職員人事について

　あけぼの共同保育所の廃止に伴い、あけぼの共同保育所から鶴見あけぼの保育園及び矢向あけぼの保育園に職員の異動があった。

　入退職は以下のとおりである。

　入職は、保育士3名（うち1名は新卒）、調理師1名、パート保育士1名、パート保育補助1名の計6名。退職は、保育士4名、調理師1名、パート保育士1名、パート調理師1名、パート保育補助1名の計8名。派遣職員（保育士、保育補助）は、契約4名、契約終了7名。

1. 横浜市の一般指導監査結果について

鶴見あけぼの保育園；2022年11月30日実施。第三者評価の実施、児童の安全対策、給食、会計について口頭指導があった。

矢向あけぼの保育園；2022年11月16日実施。児童の安全の対策、給食、会計について口頭指導があった。

1. あけぼの共同保育所の廃止について

　あけぼの共同保育所は、5月1日に入所児童が0名になったため、横浜市長の承認を受け、2022年4月30日付けで廃止し、全ての精算が終了した後、園舎として使用していたパレス鶴見の2室を売却した。

1. 本部事業
2. 役員・幹部人事について

　辞任に伴い理事、監事の各1名が、また死去に伴い評議員1名が新たに選任された。

　矢向あけぼの保育園の園長の交代があり、この交代に伴い鶴見あけぼの保育園及び矢向あけぼの保育園の主任保育士も交代した。

1. 法人運営を円滑に遂行するために理事長、業務執行理事、保育業務担当理事で構成する三役会議を設置した。
2. 中期計画の策定について

地域社会の子育て拠点施設としての役割、子どもの変化に応じた取り組みの改善、保育人材の養成確保・定着、法人経営基盤確立などを盛り込む中期計画を策定することを決定した。

1. 法人研修は新型コロナウイルス感染症の拡大防止ために今年度も開催できなかった。職員は、キャリアアップ研修、第54回全国保育問題合同研究会等へ外部研修に参加した。
2. 定款の変更、規程の改定は以下のとおりである。

・定款の変更；あけぼの共同保育所の廃止に伴い、公益事業に係わる条文の削除。

・経理規程の改定；計算書類及び財産目録の承認についてなど規定の追加。

・評議員選任・解任委員会運営細則の改定；委員の選任についての規定の追加。  
・育児・介護休業規程の改定；出生時育児休業(産後パパ休暇）などの規定の追加。

・給与規程及び契約職員給与規程の改定；60時間超え時間外労働時間の割増率の規定の追加。

・パートタイマー就業規則の改定；割増賃金の規定の追加

1. 行政庁、法務局への届出は以下のとおりである。

・横浜市長の定款の変更の認可（認可日；2023年1月13日）を受け、横浜地方法務局に、目的の変更登記申請を届出し、手続き終了（2023年1月19日）

・児童福祉施設（保育所）及び特定教育・保育施設認可・確認内容変更届（理事の変更）を横浜市長に届出（2022年4月1日）

・児童福祉施設（保育所）及び特定教育・保育施設認可・確認内容変更届（施設長の変更）を横浜市長に届出（2022年4月1日）

・横浜保育室事業廃止申請書を横浜市長に届出（2022年5月23日）

・改定育児・介護休業規程を労働基準監督署に届出（2022年8月12日）

・児童福祉施設（保育所）及び特定教育・保育施設認可・確認内容変更届(監事の変更）を横浜市長に届出（2022年11月15日）

・時間外労働に関する協定書を鶴見労働基準監督署に届出。（2023年3月16日）

1. 研修等への参加（役員）について

　以下の研修に参加した。

・第54回全国保育団体合同研究集会（web視聴）「コロナ禍で考える　今、保育、子育てで大切なこと―すべての子どもが安心して育つために　大人が声をかけあいつながろう!」

・横浜保育問題協議会セミナー（Zoom参加）「ニュージーランドの保育の話と交流」

・全国民間保育園経営研究懇話会第24回経営懇夏季セミナー　（Zoom参加）「すべての子どもに豊かな環境を保障する「制度」を　 保育現場の声を生かして　今こそ、憲法・児童憲章の精神を発展させよう」

・「基本からよく分かる！事例で学ぶ！パワハラ防止対策講座」（web視聴）

1. 保育の充実、職員の処遇の改善のための取り組みについて

　以下の取り組みを行った。

・子どものための予算を大幅に増やし、保育士の増員など保育・学童保育制度の抜本的改善を求める請願署名。

・配置基準を今すぐ改善緊急web署名。

・監査の実地検査の規制緩和に関するパブリックコメントへの取り組み。

・横浜保育問題協議会の対市交渉や横浜駅西口での宣伝行動への参加、保育士配置に関するwebアンケートの実施。

1. その他

　健康保険・厚生年金保険事務にかかる資格及び報酬等の調査を受けるが、「指摘なし」であった。

3.会議報告等

1. 評議員選任・解任委員会

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 開催日 | 出席者数 | 主な内容 |
| 2022年12月6日（火） | 委員3名  理事1名 | 評議員の選任の件 |

(2)評議員会

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 区分 | 開催日 | 出席者数 | 主な内容 |
| 定時 | 2022年6月25日(土） | 評議員6名  理事3名  監事2名  園長1名 | 2021度決算報告の承認及び監事監査報告の件、2021度事業報告、あけぼの共同保育所について |
| 臨時 | 決議の省略  2022年9月30日（金） | 評議員6名  （1名死去に伴う欠員のため同意を得ることはできなかった。横浜市監査課指導) | 監事の選任の件 |
| 臨時 | 決議の省略  2022年12月20日（火） | 評議員7名 | 定款の変更の件 |
| 臨時 | 2023年3月18日（土） | 評議員6名  理事4名  監事2名 | 役員報酬総額の承認の件、2023年度事業計画案及び2023年度予算案の報告 |

1. 理事会

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 区分 | 開催日 | 出席者数 | 主な内容 |
| 第1回 | 2022年5月28日(土） | 理事5名  監事2名  園長1名 | 2022年度定時評議員会の招集の件、2021年度事業報告の承認の件、2021年度決算報告（案）の承認及び監事監査報告の件、保育業務担当理事の選定の件、経理規程の改定の件、評議員選任・解任委員会運営細則の改定の件、マネジメントリスクプロテクション保険の承認の件、施設長の人事の件、あけぼの共同保育所について、理事長及び業務執行理事の業務執行状況報告、横浜市こども青年局監査課よる一般指導監査の結果について |
| 第2回 | 2022年9月24日（土） | 理事5名  監事2名 | 評議員会の招集の件、監事の選任案の決定の件、評議員選任・解任委員の選任の件、育児・介護休業規程の改定の件、パートタイマー就業規則（別紙)  パート職員賃金表及び契約職員給与表の改定の件、あけぼの共同保育所について、理事長及び業務執行理事の業務執行状況報告。 |
| 第3回 | 2022年12月3日（土） | 理事5名  監事2名 | 評議員会の招集の件、定款の変更の件、評議員候補者の推薦の件、パレス鶴見201号室と202号室の処分の件、給料表の改定の件、2022年度補正予算の承認の件、2023年度予算編成方針の承認の件、理事長及び業務執行理事の業務執行状況報告、2022年度矢向あけぼの保育園　半年の振り返りとこれから、中期計画の策定方針について |
| 第4回 | 2023年3月4日（土） | 理事5名  監事2名 | 2023年度事業計画案の承認の件、2023年度予算案の承認の件、役員報酬総額案の承認の件、理事長及び業務執行理事の業務執行状況報告 |
| 第5回 | 2023年3月18日（土） | 理事5名  監事2名 | 2023年度事業計画の承認の件、2023年度予算の承認の件、給与規程及び契約職員給与規程の改定の件、パートタイマー就業規則の改定の件、2022年度評議員会の報告 |

(4)運営協議会

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 開催日 | 出席者数 | 主な内容 |
| 2023年2月18日(土） | 委員5名  理事5名 | 2022年度事業計画の進捗状況について、中期計画の策定について |

1. 監事監査

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 開催日 | 出席者数 | 主な内容 |
| 2022年5月23日（月） | 監事2名 | 2021年度事業報告及び財産目録、貸借対照表及び収支計算書の監査 |

1. 実務者会議

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 区分 | 開催日 | 出席者数 | 主な内容 |
| 4月度 | 2022年4月20日（水） | 5名 | 人事、2021年度決算見込、各施設の報告、第1回理事会、定時評議員会の議題について、2021年度事業報告案について、2022年度の課題について |
| 5月度 | ― | ― | 新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止ため中止 |
| 6月度 | 2022年6月15日（水） | 5名 | 後任の監事について、社会福祉法人うしおだの評議員について、人事、各施設の報告、運営協議会について、あけぼの共同保育所について、夏季一時金について |
| 7月度 | 2022年7月20日（水） | 6名 | あけぼの共同保育所の廃止に係る報告、人事、2022年6月度決算報告、各施設の報告 |
| 8月度  　～  9月度 | ― | ― | 新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止ため中止 |
| 10月度 | 2022年10月19日（水） | 5名 | 後任の評議員の選任について、あけぼの共同保育所の廃止に係る報告、人事、2022年度上半期決算報告、各施設の報告、中期計画の策定方針について、矢向あけぼの保育園の上半期の振り返りと下半期に向けての取り組み |
| 11月度  　～  3月度 | ― | ― | 新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止ため中止 |

1. 園長会

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 開催日 | 出席者数 | 主な内容 |
| 2022年4月20日（水） | 3名 | 特別休暇・衛生管理 |
| 2022年5月10日（火） | 2名 | 人事・届出書類・研修 |
| 2022年6月15日（水） | 2名 | 人事・調理室関係 |
| 2022年7月20日（水） | 2名 | キャリアアップ研修 |
| 2022年9月15日（木） | 2名 | 保護者対応・保護者連絡 |
| 2022年10月19日（水） | 2名 | 保育体制・調理室体制・個人情報 |
| 2022年11月10日（木） | 2名 | 調理室体制・保育体制 |
| 2022年12月8日（木） | 2名 | 休職職員関係・人事 |

1. 栄養士会

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 開催日 | 出席者数 | 主な内容 |
| 2022年5月24日（火） | 4名 | 献立及びビタミンB2摂取量増の検討 |
| 2022年6月21日（火） | 3名 | 献立及びビタミンB2摂取量増の検討 |
| 2022年7月19日（火） | 3名 | 献立及びビタミンB2摂取量増の検討 |
| 2022年8月23日（火） | 3名 | 献立及びビタミンB2摂取量増の検討 |
| 2022年9月20日（火） | 4名 | 献立及びビタミンB2摂取量増の検討 |
| 2023年2月21日（火） | 2名 | 衛生管理 |
| 2023年3月27日（月） | 4名 | 矢向あけぼの保育園の魚アレルギー児童への対応について |

1. 事務会議

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 開催日 | 出席者数 | 主な内容 |
| 2023年1月26日(木） | 4名 | 保育をめぐる動向、借上社宅管理規程の注記の検討、様式の検討 |

1. 理事長による管理職面接

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 開催日 | 出席者数 | 主な内容 |
| 2022年7月28日(木） | 1名 | 新任の矢向あけぼの保育園園長の面接 |

2022年度　鶴見あけぼの保育園 事業報告

〈保育〉

開園１８年目の保育はコロナ禍３年目となり、引き続き感染拡大防止に努めながら運営した。

４月に０歳児５名・１歳児４名の計９名の新入園児を迎え全６５名で保育をスタートした。０歳児を６月には１名、１２月には２名新規受け入れし、年度後半は６８名の保育となった。

主任保育士が矢向あけぼの保育園園長に就任したため、新たな主任人事を配置した。

コロナ感染により４月に休園し、その後も職員や園児の感染が繰り返され、その度に保育体制が厳しくなり、年度前半は保育運営上での創意工夫が求められた。

そのような厳しい状況の中でも、理念・方針・保育目標を念頭に置き、子ども達ひとりひとりの発達を保障する保育をどう展開するか、保護者と子どもの育ちをどう共有するかを都度、職員と話し合い最善を尽くした。保護者からの理解・協力を得られたお陰で充実した運営できた面が多かった。

コロナ感染による制限が徐々に緩和されるに伴い、懇談会・運動会・進級式を対面で開催し、保護者とは子どもの育ちの共有・共感を得た。このことは保護者・園児・職員の力の源となった。

保育所等での園児の悲しい事故の発生や不適切保育の発生が社会全体で取り上げられ、身の引き締まる思いで保育をした。保育中の置き去り・怪我・事故の無いように人数確認や安全確認を意識し保育した他、横浜市や全国保育士会発行の保育におけるチェックリストを活用し、職員自身が自己点検し園児に対する適切な保育を行えるよう努めた。

開園時間は7：00～20：00だったが、コロナ禍ということもあり、年間通して19：00頃で全園児が帰ることがほとんどだった。年度後半には、保護者の仕事の都合による夕飯対応児童がおり20時までの保育の日もあった。

園だよりを子ども達の豊かな育ちを伝え共に力を合わせ育ち合えることを願い、毎月発行し、保護者や園関係者に配布・送付した。

コロナ禍の中にあっても、子どもをまん中に保護者と共有・共感しながら子育てを進め「共同の子育て」の理念を追求した。

〈職員体制〉

4月、新卒の正規保育士１名と派遣保育士２名、あけぼの共同保育所から異動のパート職員2名を迎えスタートした。

あけぼの共同保育所の4月末閉園に伴い、5月に3名・7月に1名の異動職員を迎えた。異動者の中には勤務日・勤務時間に制限がある者がおり、勤務体制作りに工夫を要した。７月からは、前共同保育所園長がパート保育士として０歳児保育に全面的に入ることができたため体制上大きな力を得られた。

年度当初より全クラス複数担任配置（又は保育士を補助配置）し、フリー保育士として常勤３名・パート１名（週３日）配置した。年間通してコロナ感染や怪我・体調不良により職員の急な休暇が重なり保育体制が厳しく苦労した。更に年度途中（８月末・９月末）に派遣保育士の契約途中終了が生じたため、1歳児クラスは９月より担任変更した。常勤保育士（派遣）２名減の後、補充できないまま年度末を迎えることになったが、残業や体制工夫・職員の努力と保護者の協力で乗り切った。

一時保育はパート保育士２名を配置し、非定型（仕事）要件・リフレッシュ要件の子どもを安心・安全に保育した。

土曜保育は、土曜日専任のパート保育士１名を配置し、毎週常勤保育士との組み合わせで保育を行った。土曜専任パートは、平日にできない業務（掃除・消毒等）も担った。

あけぼの共同保育所からの異動職員（保育補助）が、共同保育所からの搬入物品（玩具・文具・雑貨等）の整理整頓や園内外の清掃作業を積極的に行い、これまで滞っていた書類整理や物品整理が大きく進んだ。

〈資質向上・職員集団づくり〉

職員の資質向上・保育の継承・園児との丁寧なかかわりを目指して、全クラス複数担任体制で保育し、園児の午睡中に時間を確保して会議（乳児・幼児・リーダー・代表者・行事・給食・全職員）を開催した。

　発達支援のために作業療法士や東部療育センター・民間療育機関の巡回訪問や申し送り等を得、連携した。発達に躓きのある子どもの低年齢化に伴い、０歳児期から専門的な視点や知識が求められるため学び続ける必要があったが、個々の研修受講・学習にとどまった。

９月に地域子育て支援事業の一環で発達支援のための保護者学習会を開催し、職員も参加し学びを深めた。

年長児の就学がスムーズになるように、担任が小学校の児童支援担当者と電話で話したり訪問を受けたりし引継ぎを行った。

虐待要件で関係機関とつながっている児童については、保護者との面談を通して状況を確認したり、区役所・保健センター・児童相談所等の専門機関や主任児童委員と情報共有し、支援の充実を図った。

保育士キャリアアップ研修は、２名が１分野（食育・アレルギー対応）受講することができた。研修受講に関しては、コロナ感染や人手不足の影響もあり、一堂に会しての法人研修・園内研修を行うことができなかった。個々で、オンライン研修（全国保育団体合同研究集会・新日本医師協会主催研修・保育問題協議会研修）を受講するとともに、鎌倉のピヨピヨ保育園へ実施研修に行くなど資質向上を図った。

専門チーム（防犯防災・保健衛生管理・安全事故防止・子育て支援・研修）の活動では、防犯防災チームが、年度後半に非常食・非常備品の点検・確認整理をするなど意識的に活動した他、保健衛生管理チームが、医療備品の補充確認を適時行った。子育て支援チームは、鶴見中央地区の出張保育さくらんぼの会に出向き、地域の親子にあそびを紹介したり、園紹介をしたりした他、園で地域子育て支援講座・交流を主催した。安全事故防止チーム・研修会チームはチームとしての会議開催や活動は行えず、園長の適時対応となった。

年度後半、職員は園長と面談し、保育所職員としての振り返りと今後の目標を確認した。

保育実習生を６月と７月に１校２名受け入れ、保育士養成に協力し、園側も学びを得た。中学生の職業体験も３年ぶりに２校４名受け入れた。学生・生徒達が夢をもって次代の保育を担えるよう取り組んだ。

〈安全事故防止・危機管理〉

コロナウイルス感染拡大防止のため、年間通して保護者が送迎時に立ち入る場所を制限したが、幼児クラスの朝の送り時は制限を緩和した。

子ども達の行事での姿を保護者に届けたいという思いから、記録した画像SDカードを保護者回覧する作業を特例で前年度に行っていたが、回覧途中に紛失が明らかになった。個人情報保護の観点から本来園外持ち出し無しとしていた内容だったため、横浜市に事故報告書を提出し保護者にも謝罪した。大事には至らなかったが、従来通り園外持ち出しをしないことを園として再確認した。

　保育園・こども園・幼稚園等での園児の悲しい事故が多々発生し報道が相次いだため、我がこととして捉え情報共有を図った。日常保育はもちろんのこと、散歩や園外保育でも、主任・リーダーを中心に職員間で日々体制確認し安全を確保した保育が行えるよう全職員が連携した。

緊急を要する怪我が発生した際には、職員が連携し救急搬送や受診をした。保護者との連絡も迅速に行ない事なきを得た。

事故・怪我の発生時は、適時全職員が共有し再発防止に努めると共に、改めて毎月の職員会議で報告し再発防止を確認し合った。ヒヤリハットも都度、口頭や掲示で出し合い職員会議で確認した。

保護者のお迎え行き違いや職員の降園児童の確認不足が生じた。社会問題とも相まっていたため、登園確認とお迎え者・お迎え時間の確認を保護者の協力を得ながら徹底した。

又、怪我発生時に報告が行われず傷が悪化する事態が発生したことから、報告・連絡・相談の徹底についても確認した。前年度に散歩車の総入れ替えをしたことから、使い慣れない散歩車での安全確認不足による事故発生があった。改めて使い方を実地にて確認し再発防止に努めた。

夏のプール活動では必ず監視員を配置し実施した。同時に、消毒液（塩素液）の扱い・運搬を大人のみに徹底することを確認した。

毎月、担当者を中心に避難訓練を実施し、火災・地震・浸水・不審者発生の有事に備えた。

〈保護者との連携〉

　園のモットーとしてきた保護者会との連携や共に作り合う行事等が当初行えなかったが、６月・9月の土曜日の大掃除とプール組み立て・プール解体作業・園庭整備に力を注いでいただき、職員も励まされた。年2回開催の三者懇談会を対面で開催し、保護者からの意見要望を得、園の現状や考えについて伝え、子ども達の成長や子ども主体の保育の内容を保護者と分かち合った。あけぼのの保育がコロナ以前と変わっていないことが子どもの姿・育ちからわかるという言葉を保護者から得られ、職員の励みになった。

クラス懇談会や個人面談でも対面で話せたことは、保護者・職員共に、共同の保育の原点に立ち戻った思いで、希望・展望を抱きながら保育・子育てに励むことができた。

　ホームページを活用し、保護者に行事を通しての子どもの成長を届けた。

〈地域連携〉

入所希望者の保育園見学会を３年ぶりに再開した。９月～１１月にかけて週一回開催し、約７０名の入園希望者が参加した。

　町内会とのやり取りは少なかったが秋の球根植えの際にお声がけいただき、4歳児が町内花壇へのチューリップの球根植え活動に参加した。

和太鼓演奏や焼き芋会開催前・大型工事前等には、近隣にお知らせ文書を配付し、騒音等に対する理解・協力を仰いだ。

　夏のプール活動時に、近隣から子ども達の声による騒音とウイルス飛沫を心配する苦情連絡が入った。コロナ禍が長引く中、様々な不安やストレスを持つ方がいることを受け止めながら職員・園児に注意喚起するとともに、飛沫防止シート（目隠し）を３階フェンスに取付け、早急に対応した。

　３月、園舎前の横断歩道の白線がほぼ消えかかっていることに気づいた住民から園児の交通事故を心配する連絡をいただいた。鶴見警察署へ出向き早急な対応を要望、４月２１日に白線引き工事が実施された。近隣住民が、子ども達の安全に気を配ってくださっていることがわかり、近隣との付き合いの大切さを実感した。

　年末には近隣へのあいさつ回りを行い、いわさきちひろカレンダーを手渡しながら日頃の感謝を伝えた。

〈設備整備・修繕関係〉

　加圧給水ポンプの故障が生じ２０２３年1月に部品交換をした。

　調理室内調理台下の電気の漏電疑いが生じ、調査・修理を実施した。

　調理室内包丁まな板殺菌庫の故障が生じ、部品交換をした。

　開園１８年を経て、調理室他の機器の経年劣化が生じているため、こまめなチェックが必要となっている。機器の稼働が止まった場合、給食提供に影響を与えることが考えられるため、機器・什器の交換計画の作成が求められる。

　庭師による園庭樹木の害虫駆除・整備等を例年通り行ったとともに、園庭の砂を補充し、保護者と共に砂場作り・築山づくりを行い、快適で豊かな園庭で子ども達が過ごせるようにした。

〈保育運動〉

保育予算の増額や国の保育士配置基準の見直しを求め、国・横浜市に向けた保育署名に取り組むとともに、対市交渉や駅頭署名宣伝行動に参加した。

横浜保育問題協議会・よこはまの保育を考える園長の会・鶴見区子育て教育懇談会の役員や運営委員を園長が担い、保育の向上に向け他園・他団体と交流しながら保育運動を進めた。

　＊計画にあった第三者評価受審は、コロナ感染と人手不足による準備不足で実施することができなかった（次年度受審予定）。

１.園児数の推移　（通常保育）

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　（単位　名）

|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 月 | 定員数 | ０歳児 | １歳児 | ２歳児 | ３歳児 | ４歳児 | ５歳児 | 合計 | 開園日数 |
| ４月 | ６０ | ５ | １２ | １２ | １２ | １２ | １２ | ６５ | ２５日 |
| ５月 | ６０ | ５ | １２ | １２ | １２ | １２ | １２ | ６５ | ２３日 |
| ６月 | ６０ | ６ | １２ | １２ | １２ | １２ | １２ | ６６ | ２６日 |
| ７月 | ６０ | ６ | １２ | １２ | １２ | １２ | １２ | ６６ | ２５日 |
| ８月 | ６０ | ６ | １２ | １２ | １２ | １２ | １２ | ６６ | ２６日 |
| ９月 | ６０ | ６ | １２ | １２ | １２ | １２ | １２ | ６６ | ２４日 |
| １０月 | ６０ | ６ | １２ | １２ | １２ | １２ | １２ | ６６ | ２５日 |
| １１月 | ６０ | ６ | １２ | １２ | １２ | １２ | １２ | ６６ | ２４日 |
| １２月 | ６０ | ８ | １２ | １２ | １２ | １２ | １２ | ６８ | ２４日 |
| １月 | ６０ | ８ | １２ | １２ | １２ | １２ | １２ | ６８ | ２３日 |
| ２月 | ６０ | ８ | １２ | １２ | １２ | １２ | １２ | ６８ | ２２日 |
| ３月 | ６０ | ８ | １２ | １２ | １２ | １２ | １２ | ６８ | ２６日 |
| 合計 | ７２０ | ７８ | １４４ | １４４ | １４４ | １４４ | １４４ | ７９８ | ２９３日 |

２．人事・体制

年度初職員数 正規１５名、パート１３名、派遣４名　　計３２名

年度末職員数　正規１７名、パート１３名、派遣職員２名、計３２名

３.会議・行事

感染防止に努め、極力密にならないよう又、夜残ることのないようにし職員会議は平日の日中に開催した。

年間で計画した行事は日にち変更等生じたが、工夫しながらほぼ予定通り開催した。新入園児説明会はZoomを活用しオンライン開催した。コロナ感染の影響により過去約２年間十分にできなかった保護者の行事参観を多少の制限はありながらもリアルで進め、子どもの育ちを共有し合うことができた。卒園式は、３年ぶりに保護者以外の家族（祖父母・兄弟）も参加可能とし、たくさんの関係者と成長を分かち合った。

三者懇談会は年２回、ホールに集まってリアル開催し、保護者と写真や文集について話し合うことができた。

　 行事は、子ども達一人ひとりが日々の積み重ねの中で成長・発達すること（当日までの過程を大切に）主体的に取り組むことを大切にし、主任や各行事担当者を中心に極力皆の意見を出し合いながら、適時会議を重ね進めた。

（１）会議・健診

　　　・適時実施　　　クラス代表者会議、乳児会議、幼児会議、給食会議

　　　　　　　　　　　リーダー会議（園長・主任・リーダー）、職員会議

・毎月実施　　　園児身体測定、避難訓練、誕生日会、職員腸内細菌検査

　　　・年２回実施　　園児健康診断（６月・１１月）、大掃除（６月・１０月）

歯科検診（７月・１１月）、三者懇談会（７月・１１月）

　　　・年１回実施　 ３歳児視聴覚検査（１０月）、尿検査（１１月）

　　　　　　　　　　　職員健康診断（５月～３月）

（２）行事

　４月　　　　　　入園説明会（オンライン開催）

３歳児　　　オーベル遠足（鶴見川土手）

クラス懇談会（０歳児～５歳児）

６月　　　　　　４・５歳児　ザリガニ釣り遠足（入江川せせらぎ緑道）

７月　　　　　　夏まつり

七夕

木村順先生（作業療法士）療育巡回訪問

　　　９月　　　　　　５歳児　　　お泊り保育

　　東部療育センター巡回訪問

木村順先生の発達講座・相談会（保護者向け）

１０月　　　　　　乳児運動会（ホールにて２日間開催）

　　　　　　　　　幼児運動会（鶴見小学校にて開催）

　　全クラス保護者との個人面談１０月～１２月

　 職員インフルエンザ予防接種実施（園より半額補助）

１１月　　　　　　２～５歳児　芋掘り遠足（緑区新治町）

焼き芋会

　　クラス懇談会（０歳児～３歳児）

横浜市指導監査

　　１２月　　　　 音楽会(森のゆかいな三人組)

クリスマス会（サンタさんからプレゼント）

　　木村順先生（作業療法士）療育巡回訪問

　　１月　　　　　　　はっぴょうかい（クリスマス会時の劇・歌等の披露）

　　　　　　　　　　　クラス懇談会（０歳児・２歳児）

　　　　　　　　　　　EM活性液づくり講座（縁藤造園）

　　２月　　　 　節分

　　　　　　　　　　　こま大会

　　乳児進級式

クラス懇談会（1歳児・５歳児）

　　　　　　　　　 中学生職業体験（市場中学校・潮田中学校）

３月 　　　　 卒園式

　　　　　　　　　幼児進級式

５歳児卒園遠足（新治市民の森）

３歳児　遠足（東部病院裏公園）

２歳児　遠足（總持寺）

　　　　　　　　　　　１歳児　遠足（總持寺）

　　　　　　　　　　 ０歳児　遠足（鶴見川オーベル土手・園庭にてお弁当）

　　　　　　　　　　 棗田さんの語りの会（３・４・５歳児）

　　　　　　　　　　　お別れ会

　 記念文集第号１８号発行

新入園児入所説明・面談

４．職員研修

コロナ禍ではあったが、子ども達のより良い育ちのために、又自分自身のためにオンライン活用や現地に出向き研修参加した。他園への実地研修・全国保育団体合同研究集会の研修・新日本医師協会主催の研修・音楽教育の会の全国大会研修・行政主催研修など幅広く受講した。保育士キャリアアップ研修は、２名が１分野（食育・アレルギー対応）を受講した。

研修参加職員からは、「学びが保育の力、自分のエネルギーになることを改めて感じた」「研修を受けながら、具体的な子ども像を思い浮かべ、担任同士で明日からの保育を話し合えた」という声が聞かれ、学びの意味を確認できた。（別紙参照）

５.施設整備・修理・購入品

４月　　　　　　全館消毒（ブラザー興業）

５月　　　　　　浄水器カートリッジ交換（太陽食品）

　　　　　　　　消防設備点検（富士防災）

ゴキブリ駆除作業（ブラザー興業）

　　　６月　　　　 エアコン・換気扇クリーニング（フォースクリーン）

　　　７月　　　　　　七夕用笹竹設置（芝山造園）

調理室殺菌灯交換

園庭樹木・土壌整備（縁籐造園）

全館消毒（ブラザー興業）

　　　８月　　　　 　横浜市保育運営課巡回訪問

　　　　　　　　　　　リソグラフ印刷機回収（理想科学）

９月 　　　　　 園庭植栽手入れ（縁藤造園）

　　　　　　 園庭砂場補充（芝山造園）

１０月　　　　　　保育室戸車交換（柴田工務店）

　　　　　　　　　　　調理室ガス警報器交換

１１月　　　 　 ゴキブリ駆除作業（ブラザー興業）

　　　　　　　 消防設備点検（富士防災）

　　　　　　　　　駐車場白線引き（株式会社信和）

　　　　　　　　　園庭マンホール修理（株式会社信和）

ピアノ調律（三上調律師）

１２月　　　　　 園庭植栽剪定作業（縁藤造園）

全館消毒（ブラザー興業）

　　　１月　　　　　　加圧給水ポンプ交換（川本サービス）

２月　　　　　　受水槽清掃（正水社）

３月　　　　　 ３F洗濯機ホース修理（斉藤設備）

他、３か月ごとに電気点検（日本テクノ）・ダムウェーダー点検（新日本リフト）年１回電気点検実施

６.地域子育て支援事業

（１）施設の地域開放

　毎月第２・第４火曜の午前１０時～１２時の間で実施。

（２）交流保育　　７月７日（木）　七夕飾りづくり

　　　　　　　　　１２月２日（金）音楽会（歌とピアノと打楽器を楽しもう）

　　　　　　　　　３月２日（木）　和太鼓公演

（３）育児講座　　１月２６日（木）EM活性液づくり

　　　　　　　　　２月４日（土）　ベビーマッサージ講座

７.一時保育事業

　一時保育は、パート保育士２名を配置し、専用保育室にて１歳児・２歳児を中心に非定型保育（就労）・リフレッシュ保育を安全安心に進めた。

一時保育室の利用状況　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　（単位　名）

|  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 事業内容 | ４月 | ５月 | ６月 | ７月 | ８月 | ９月 | １０月 |
| 非定型保育 | ４ | ０ | ０ | ９ | ８ | ２５ | １８ |
| 緊急保育 | ０ | ０ | ０ | ０ | ０ | ０ | ０ |
| リフレッシュ | ０ | ４ | １６ | １２ | ３ | ２ | ５ |
| 計 | ４ | ４ | １６ | ２１ | １１ | ２７ | ２３ |
| 事業内容 | １１月 | １２月 | １月 | ２月 | ３月 | 合計 | 備考 |
| 非定型保育 | １５ | １７ | １１ | ２３ | ２４ | １５４ |  |
| 緊急保育 | ０ | ０ | ０ | ０ | ０ | ０ |  |
| リフレッシュ | ３ | １ | ９ | ４ | ２ | ６１ |  |
| 計 | １８ | １８ | ２０ | ２７ | ２６ | ２１５ |  |

2022年度　矢向あけぼの保育園 事業報告

〈保育〉

開園から９年目の年、コロナ禍の保育は３年目となった。４月に０歳児２名・１歳児２名２歳児１名・３歳児１名の計１３名の新入園児を迎え５３名でスタートした。５月に２歳児１名・３歳児１名を受け入れ、０歳児は、８月に１名９月に１名１０月に２名で、最終５９名の園児になった。

園長に４月より鶴見あけぼの保育園の主任だった飯田が新しく就任し、主任も、他の園で主任保育士の経験のある渡邊が入職、職員も新しい体制の中でのスタートになった。

今年度は、コロナ感染者が乳幼児にも多く感染するタイプになったためか、５月・７月と子ども職員に感染者がでて休園とした。７月下旬より、コロナ対応が変わり濃厚接触者を追わなくなり、休園をしないと変わるなか、８月下旬から９月上旬にかけて、幼児クラスでクラスターがおこり、幼児クラスの担任がほとんど感染してしまい、区と相談させていただき幼児クラスを休園、乳児クラスは開所する対応をした。オミクロン株になっての感染力のすごさを感じた。その後も、職員の家族の感染や職員の感染、子どもの感染と相次ぎ、保育体制が厳しい日々が続いた。１２月下旬では、調理担当が感染し食事提供が難しいと判断し保護者にお弁当の協力をしていただいた。感染対策を、衛生チームを中心にしながら見直しなどを行ってきたが、感染力の強いウイルスには難しかった。一方で、子どもたちの免疫力がさがっているとも感じた。この３年間の過度な消毒のもたらす弊害なのか、ただの風邪でも、１週間以上治らない発熱や下痢などの症状を繰り返す、特に乳児クラスの子どもたちが多かった。

保育室への入室制限や健康チェック・消毒作業などを継続して行いながら、制限がある中でも、子ども達の経験する機会や発達を保障する場としてどのように保育が展開できるか、職員と話しあい、行事は中止にするより開催時期や参加の在り方を見直し行うことができた。

　地域の年長児の交流や小学校での入学前の交流、小学校の行事に参加させてもらうなど、直接的な交流が以前のようにできるようになった。間接的でも、近くの特別養護老人ホームへお手紙を書いて渡すことができるなど、地域社会とのかかわりも保育の中で再開できた。

昨年度、矢向あけぼの保育園の保育の在り方が定まらなくなり、保護者からも不安であるとの訴えもあった。幼児クラスは、年間・月のカリキュラムを同じにすることで、どちらのクラスであっても、大きな違いがないようにした。幼児クラスで話し合いをし、共通認識を高めあっていった。その他今年度は、何度か緊急に職員会議をひらき、保育の大事にしていることの確認をした。リーダー会議・幼児会議・乳児会議・各クラスの会議・職員会議・行事の会議と、職員同士の話し合いの場を多くもった。職員の休憩保障が難しい課題が残ったが、担当任せになったりしないよう、子どもの状況をひとりひとり把握していけるようつくってきた。

　配慮を必要とする子どもも多く、他害してしまう子どもが加害者ならないように、体制の見直しや、日々の保育の進め方など模索しながら行った。療育センターとの連携をしていきたかったが、検査そのものの待ちが長く保護者が申し込んでから診断されるまでに半年以上かかってしまうことが現状で、それを待つことができない現場では、見越した対応を行ってきた。

　保育所での事故や不適切な保育について、大きくニュースなどで取り上げられるなか、

つど、職員で確認しあい横浜市や全国保育士会などのチェックリストを活用し、事故を起こしやすい現場・ヒューマンエラーになりやすい職場の人間関係も含めて考えあってきた。不適切な保育については、保育士ひとりひとりの価値観にもつながり保育の見直しにもなった。

　園だより・保健だより・給食だよりは毎月発行、クラスだよりは各月発行をし、情報の発信や保育の子どの姿を保護者・園関係者に伝えるよう配布・送付した。

　新しい保育体制の中で、大事にしていきたい保育の確認とコロナ禍の中での保育をどのようにつくっていくのか再構築していく年であった。

〈職員体制〉

４月より園長・主任の入れ替わり、リーダー保育士２名を配置しての組織体制をつくりスタートした。土曜日の保育希望者が多く、土曜日勤務の体制づくりが難しくパート職員や事務職員（子育て支援員の資格あり）も協力してもらい乗り越えてきた。昨年度からの課題である人間関係づくりでの構築の中、保育士・調理師１名ずつが精神疾患で退職した。反面昨年度、精神疾患で休職していた職員は復帰することができた。職員同士の共通認識や信頼関係をつくっていく事には時間がかかるが、会議や面談を重ね園長・主任・リーダーを中心に組織的に対応してきた。

今年度は、育休から復帰２名、産休に入った職員１名と、女性の多い職場なので、子育てしながら続けていけるよう職員同士でも配慮をしあってきた。

配慮児の対応のため、人手不足だった数か月の部分や職員採用の状況では、鶴見園との協力で乗り越えた。

年度の途中で、仕事の実態や職員の状況に合わせて、労働契約の変更を行った。

コロナの影響により、一年間通して職員の体制は不安定だった。職員全体で臨機応変な勤務体制をつくって対応せざるを得ない状況だった。一時保育は、前半は受け入れることができたが、後半は職員体制の不安定さから受け入れが困難だった。

〈資質向上・職員集団づくり〉

保育の再確認をする中、全体的な保育計画に基づきカリキュラムの作成内容が保育所保育指針にそった内容になっているか見直しをした。

保育の充実に向け、発達支援の作業療法士や東部療育センターの巡回訪問で援助を得た。診断名がついている子どもたち以外にも、特に３歳児に心配される子が多く、発達に躓きのある子どもたちへの具体的な手立てをどうしていくのか、集団保育をしながら個別配慮をするという視点での学びも深めていく必要性を感じた。保護者対応としても、保護者の特性を踏まえながら配慮しなければいけない点も出てきているため、職員間で子ども理解と保護者理解も深め、一人ひとりにそった対応に努めた。

虐待要件や家庭支援を必要とする園児も入園していることから、現場での対応だけでなく、窓口になりやすい事務員、パート職員も含めて情報の対応の共有、区の担当職員との連携、時には、療育センターの心理の先生のアドバイスなどを受けチームとして保護者支援を行った。虐待要件のあるご家庭は、小学校への入学を控えていたこともあり、小学校・区の担当・保健師・保育園・保護者が利用している発達支援の学習教室などの関係者が集まりカンファレンスを行った。

研修の多くは、ZOOMなど配信が主流だったが、子育て中の職員からは、参加しやすいとの意見もあり、合研などは、多くの職員が学び、それぞれが、研修報告をわかりやすくまとめたのを、ファイルし他の研修の内容の情報交換になり学ぶことができた。

看護師は、鶴見区の研修に参加して、他の保育園での情報やコロナ禍で各園がどのように対策しながら保育現場を守っているのかなどの交流し、改めて早寝・早起き・体を動かし、しっかり食事をとることで免疫機能をあげていくことの大切さを感じたとの報告があり、園内での情報共有や保護者への情報発信を行った。

コロナ対策にともない、衛生チームが中心になり、感染拡大防止についてコロナだけでなく、様々な感染症対策への見直し確認を行い、職員の意識向上を促した。

防災カンファレンスの研修にも参加し、防災チームを中心に現場で取り組めることはないか、考えるきっかけになった。具体的には、進んでいないがマニュアルの見直しと共にすすめているところである。コロナ禍ということもあり、救命救急の講習を開催できなかった。

保育士のキャリアアップ研修へも１名参加できた。後半の取り組みだったため、１５時間という研修に出すことも難しく、計画的に研修を受けていける体制づくりが求められる課題が残った。

園長との面談は、年に２回行い今後どのように、ひとりひとり保育という仕事を取り組めるのかの確認の場になった。２月には、年度の振り返りと共に、来年度は園としての取り組みを深めていく事や、再構築していく点など話し合い次年度への課題を見据えていく事ができた。

〈安全事故防止・危機管理〉

今年度も、コロナウイルス感染拡大防止のため、年間通して保護者が送迎時に立ち入る場所を制限した。又、入所希望者の見学会は６月よりスタートし４組までとし行った。園関係者以外の園内立ち入りを最小限にした。行事では、夏まつりを例年と違う形で行い、年長クラスの保育を中心としたものに変更し園内開催にとどまった。運動会は開催日と会場を乳児と幼児で分け、乳児は園ホールで、幼児は矢向中学校の体育館で行った。時期や世の中のコロナ感染者数などの状況を配慮し、感染対策を行いながら行事を取り組んだ。

園が狭いことや密になりやすい事も踏まえて、保護者がなかなか園の行事に参加できないところをDVDなどにして保護者に届けたが、見ることができない家庭や映像が回ってくるのに時間がかかるなど、情報の安全性からもネットでの活用の必要性を感じた。

場所が移動して、４月から新しい園庭になったが、鉄棒と砂の位置が近く、使用にあたっては、安全の再確認を行った。大型プールは、保護者会の力を借りて組み立てることができたが、陽当たりが悪く水温があがりにくい中、設備的にお湯の使用が不便な点があり、課題が残った。陽当たりの悪さは、冬になると深刻で一日中、陽があたらず乳児クラスは、散歩での戸外遊び中心になった。戸外での安全性を確保するため、人手を多めに配置した。

　緊急を有する怪我が発生した時、園長が不在だった場合のマニュアルが徹底されておらず

対応は、看護師・担任を中心に行ったが報告が遅れたことで全体での周知や区役所への報告が遅くなるなど、全職員へのマニュアル周知を行った。事故やケガでの過去からの経験での見直しがされていないことがわかり、再度見直しや、新しい職員でもわかるようなものが必要だとわかった。その他の点でも、早番・遅番の職員のマニュアルなど新しく作成が必要であることもわかり、主任・リーダーを中心に作成を行っている。

　毎月、担当者を中心に避難訓練を実施、ヒューメデイカの担当の職員も参加していただき連携を図っている。浸水や洪水被害に備えて４階への避難でも難しいと予測される場合は、うしおだ総合ケアセンタービルへの避難も考えられるため、職員で避難経路の下見と確認をおこなった。

〈保護者との連携〉

　昨年度、職員間の不調和を心配される保護者が多く、そこへ新しい園長と主任とのことで不安なことも多くあると思われるので、保育説明会を４月に開催した。

　プールの設置や文集作成など園の行事にかかわれるところでは、連携を行った。夏まつりでは、保護者は参加できなかったが子どもたちへ、「頑張ったね」とプレゼントを用意していただいたり、保護者会主催での木のおもちゃで遊ぶ会を設け園に呼んでいただいた。

　保育参加・参観も行い、園の給食も法人統一のメニューになったのでこの機会に、食べてもらった。その後、個人面談も行い日頃の保育園での様子と子育ての相談をしあう機会になった。

　２月に、三者懇談会を開催する予定だったが、雪のため３月に延期した。保護者からは、職員の入れ替わりが多かったことで顔写真が欲しかったことや、マスク着用はどうなっていくのか、子どもたちの写真のデータ・動画についての要望が多く、園での考え方や、すぐに改善できる点と時間が必要なものなど相互で確認することができた。

〈地域連携〉

　尻手スマイル保育園と矢向つぼみ保育園は今年度も連携園の契約をした。尻手スマイル保育園は契約期間を１０年とした。コロナ禍ということもあり、今年度も交流は自粛し、園だより、保健だより、給食だよりなどの情報提供を行った。

　矢向の町会とは連携をとり公園の草刈りの日程など事前に教えていただき散歩の計画に反映させることができた。

　矢向共同保育所時代から交流のある、染谷さんとは、笹やヒイラギを毎年分けていただいたり、子どもたちはクッキーを焼いて持って行ったりと交流が続いている。焼き芋会では、焼いたお芋をヒューメデイカやうしおだ総合ケアセンターへ子どもたちが届け良い機会となった。

　地域支援として、「こどもの時間」の映画鑑賞会・ベビーマッサージ・クリスマスコンサート・わらべうたの会など開催することができた。

　矢向中学校・市場中学校の職業体験も実地参加ができた。

〈設備関係・修繕関係〉

　たんぽぽ組の柵やつくし組のベランダの柵・給湯器のカバーの取り付けを行い、安全にベランダを活用できるように改善した。

　コロナ禍でパソコンの使用量が増え、園長・主任のパソコンを購入した。

　園庭については、新しい場所ということもあり、鉄棒やボルダリングの下に落下時の安全対策のマットや汐田病院の駐車場からの目隠しシートとブロック塀へのカバーとして人工芝を設置した。

　矢向あけぼの保育園のホームページの管理者が終了してしまったため更新できなくなったがコロナ禍の中で、外部の業者の出入りや予算を組むことができず、そのままになっている。

すぐには、難しいが改善していくよう検討している。

1. 園児数の推移　（通常保育）

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　（単位　名）

|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 月 | 定員数 | ０歳児 | １歳児 | ２歳児 | ３歳児 | ４歳児 | ５歳児 | 合計 | 開園日数 |
| ４月 | ６０ | ２ | ８ | ８ | １１ | １２ | １２ | ５３ | ２５日 |
| ５月 | ６０ | ２ | ８ | ９ | １２ | １２ | １２ | ５５ | ２３日 |
| ６月 | ６０ | ２ | ８ | ９ | １２ | １２ | １２ | ５５ | ２６日 |
| ７月 | ６０ | ２ | ８ | ９ | １２ | １２ | １２ | ５５ | ２５日 |
| ８月 | ６０ | ３ | ８ | ９ | １２ | １２ | １２ | ５６ | ２６日 |
| ９月 | ６０ | ４ | ８ | ９ | １２ | １２ | １２ | ５７ | ２４日 |
| １０月 | ６０ | ６ | ８ | ９ | １２ | １２ | １２ | ５９ | ２５日 |
| １１月 | ６０ | ６ | ８ | ９ | １２ | １２ | １２ | ５９ | ２４日 |
| １２月 | ６０ | ６ | ８ | ９ | １２ | １２ | １２ | ５９ | ２４日 |
| １月 | ６０ | ６ | ８ | ９ | １２ | １２ | １２ | ５９ | ２３日 |
| ２月 | ６０ | ６ | ８ | ９ | １２ | １２ | １２ | ５９ | ２２日 |
| ３月 | ６０ | ６ | ８ | ９ | １２ | １２ | １２ | ５９ | ２６日 |
| 合計 | ７２０ | ５１ | ９６ | １０７ | １４３ | １４４ | １４４ | ６８５ | ２９３日 |

２．人事・体制

|  |  |
| --- | --- |
| 年度初職員数　　正規１８名、契約２名、パート９名、派遣２名　　　計３１名 | |
| 年度末職員数　　正規１６名、契約４名、派遣１名、パート１０名　　計３１名 |

３.会議・行事

　コロナ感染対策や子育て中の職員の参加を確保するため、職員会議は平日の日中と土曜日・夜の開催と様々な形で取り組んだ。行事は、子ども達一人ひとりが日々の積み重ねの中で成長・発達すること（当日までの過程を大切に）、主体的に取り組むことを大切にしてきた、コロナ感染者がでて日程を変更することはあったが中止にせず開催するよう対応した。

（１）会議・健診

　　　・毎月実施　　　リーダー会議（園長・主任・リーダー）、職員会議

乳児会議、幼児会議、給食会議、

　　　園児身体測定、避難訓練、誕生日会、職員腸内細菌検査

　　　・年２回実施　　園児健康診断（７月・１０月）、大掃除（６月・１１月）

歯科検診（６月・１２月）

　　　・年１回実施　 ３歳児視聴覚検査（１０月）、尿検査（１１月）

　　　　　　　　　　　職員健康診断（１２月～１月）

（２）行事

　４月　　　　　保育説明会

　　　　　　　　花見遠足（ゆり・ひまわり合同遠足）

５月　　　　　懇談会（乳児クラスはコロナのため中止・幼児クラスはzooｍにて開催

６月　　　　　プール設置

７月　　　　　七夕会

　　　　　　　夏まつり

木村順先生（作業療法士）療育巡回訪問

　　１０月　　　　　お月見団子作り（ゆり・ひまわりクラス）

　　　　　　　　　　東部療育センター巡回訪問

幼児運動会（矢向中にて保護者参加あり）

乳児運動会（園のホールにて）

芋ほり遠足（ゆり・ひまわりクラス）

　 全クラス保護者の保育参観・参加・個人面談１０月～２

１１月　　　　　焼き芋会

視聴覚検診（３歳児）

年長児近隣保育園との交流

お泊り保育（年長）

木村順先生（作業療法士）療育巡回訪問

大掃除

　　１２月　　　　 矢向中学校職業体験

職員インフルエンザ予防接種実施（園より半額補助）

クリスマス会

もちつき

　　１月　　　　　　木のおもちゃで遊ぶ会

　　２月　　　 市場中学校職業体験

　　　　　　　　　　新鶴見小学校１年生との交流（年長児）

　　　　　　　　　　新鶴見小学校のウィンターフェスティバルに参加（ゆり・ひまわり組）

節分

　　　　　　　　　　クラス懇談会（全クラス）

３月 　　　　ひなまつり会

卒園式

　おわかれ遠足・ゆり・ひまわり合同（佃野公園）

　ちゅうりっぷ組遠足（元宮さわやか公園）

　年長遠足（三ツ池公園）

　 進級お祝い会

記念文集第号９号発行

新入園児説明会・面談

４．職員研修

　　コロナ禍ではあったが、子ども達のより良い育ちのために、又自分自身のために、学び続けようと、ZOOMやYouTubeを活用し、全国保育団体合同研究集会の講座や防災カンファレンスなどの講座に参加した。コロナ禍なので他の園の保育を見る機会が少ないので、園内研修として「こどもの時間」の映画を鑑賞しそこから、日々の保育への刺激や気づきをつくる機会になった。（別紙参照）

５.施設整備・修理・購入品

４月　　　　　園庭ライト設置（あさひ電気）

浄水器カートリッジ交換（太陽食品）

つくし、ベランダ給湯器カバー取付、柵の取り付け（山崎工務店）

たんぽぽ、柵の設置（山崎工務店）

グリストラップ点検（ウォーターフィールド）

園長用PC購入（大塚商会）

５月　　　　　ピアノ調律（河合楽器）

　　　　　　　全館消毒（ブラザー興業）―コロナ陽性者が出て休園中

　　　６月　　　　 食洗器・冷蔵庫・食器保管庫点検（ほしざき湘南）

　　　　　　　　　　ネットワーク修理（大塚商会）

消防設備点検（共栄防災）

　　　７月　　　　　ダムウェーダー点検（クマリフト）

　　　　　　　　　　害虫駆除（ブラザー興業）

　　　８月　　　　 調理室コンロ修理（日米厨房）

９月　　　　　給食食材の放射性物質測定（横浜市子育て支援課）

ダムウェーダー点検（クマリフト）

　　　　　　　食洗器・冷蔵庫・食器保管庫点検（ほしざき湘南）

　　　　　　　エアコンクリーニング（フォースクリン）

　　１０月　　　　　主任用のPC購入

１１月　　　 　 ダムウェーダー点検（クマリフト）

ゴキブリ駆除作業（ブラザー興業）

１２月　　　　　食洗器・冷蔵庫・食器保管庫点検（ほしざき湘南）

　　　　　　　　調理室・園内換気扇クリーニング（フォースクリン）

１月　　　　　ダムウェーダー点検（クマリフト）

２月　　　　　冷蔵庫点検（ホシザキ）

３月　　　　　ダムウェーダー点検（クマリフト）

スチームコンベクション修理（ホシザキ）

　　　　　　　　　　消防設備点検（共栄防災）

６.地域子育て支援事業

（１）施設の地域開放

　毎週第木曜日の午前１０時～１２時の間で実施。

（２）交流保育　　７月２日　　　　夏まつり（園児以外は中止）

　　　　　　　　　８月４日　　　　水遊びの交流（コロナ感染者が出たため中止）

　　　　　　　　　１２月３日　　　おやこで楽しむクリスマスコンサート

　　　　　　　　　１月２１日　　　わらべうたの会

（３）育児講座　　６月１９日　　　「こどもの時間」の上映会

　　　　　　　　　１２月１０日　　ベビーマッサージ講座

　　　　　　　　　３月４日　　　　離乳食講座

７.一時保育事業

　幼稚園の夏休み期間で利用したい方が、冬休みや春休みの時に利用したいとの連絡が入ったが、後半は人の配置が難しいことで受け入れができなかった。その他、コロナ感染症が多く出た時期も年間の中で何度もあり専用の部屋がないことなどで、利用者を増やすことができなかった。

一時保育室の利用状況　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　（単位　名）

|  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 事業内容 | ４月 | ５月 | ６月 | ７月 | ８月 | ９月 | １０月 |
| 非定型保育 | ０ | ０ | ２ | ３ | ３ | ０ | ０ |
| 緊急保育 | ０ | ０ | ０ | ０ | ０ | ０ | ０ |
| リフレッシュ | ０ | ０ | ０ | ０ | ０ | ０ | ０ |
| 計 | ０ | ０ | ２ | ３ | ３ | ０ | ０ |
| 事業内容 | １１月 | １２月 | １月 | ２月 | ３月 | 合計 | 備考 |
| 非定型保育 | ０ | ０ | ０ | ０ | ０ | ８ |  |
| 緊急保育 | ０ | ０ | ０ | ０ | ０ | ０ |  |
| リフレッシュ | ０ | ０ | ０ | ０ | ０ | ０ |  |
| 計 | ０ | ０ | ０ | ０ | ０ | ８ |  |

8.保育運動

　保育士の配置基準の見直しや、こども家庭庁ができ国はどのように子どもたちや子育て家庭を支えていくのかなど情報を発信し、保護者へ訴えてきた。すぐには、署名の数や保護者を巻き込んでの運動にはつながらないが、子どもたちへの保育の質向上に向けて進めてきた。

※第三者評価を受けなければいけない時期になっていたが、コロナ感染症と職員の新体制のため実施することができなかった。（２０２３年度受診予定）。